

自分も他者も大切にし、前向きにチャレンジする児童の育成

—PDCA サイクルを意識したキャリア教育—

1. 設定理由

今日、一人ひとりが「生きる力」を身に付け、しっかりとした勤労観・職業観を形成・確立し、将来直面するであろう様々な課題に柔軟にたくましく対応する力を高めることが重要な課題となっている。その中で、小学校においては、児童が自分自身を見つめ、自らの将来について目を向ける機会などを通して、自分のよさや可能性などに気づき、自分らしい生き方を実現していこうとする態度を育成することが重要である。

このことを踏まえ、本研究では、各教科や領域において、キャリア教育の視点を取り入れた指導を行い、児童の変容を見取っていきたいと考えた。児童の実態を的確に捉え、必要な「基礎的・汎用的能力」の育成が行えれば、児童が自分も他者も大切にし、前向きにチャレンジするようになり、「生きる力」を身に付けられるのではないかと考える。

2. 研究仮説

PDCA サイクルを意識したキャリア教育を実践することにより、自分も他者も大切にし、前向きにチャレンジする児童を育成できるだろう。

3. 研究内容

- (1) 児童の実態を的確に把握し、計画や評価につなげるためのアンケートの研究
- (2) 実践（4年生・6年生におけるキャリア教育を取り入れた指導について）
- (3) 実践の中でのPDCAサイクルについて

4. 結 論

○児童の実態を知るためのアンケートの研究をしたことで、目標を立てるときに、どんな力を身に付けさせたいのかが明確になった。また、定量的な評価がしやすくなった。

○実践を重ねることで、児童が少しずつ変わってきたことから、各教科や領域の学習にキャリア教育を取り入れることのよさが改めてわかった。

○PDCAサイクルの一連の流れを研究する中で、キャリア教育の進め方の理解が進んだ。

千葉市教職員組合

千葉市立花見川第三小学校

稲 生 明 尚

千葉市立源小学校

湯 浅 正 幸

1 研究主題

自分も他者も大切にし、前向きにチャレンジする児童の育成
- PDCA サイクルを意識したキャリア教育 -

2 主題設定の理由

子どもたちが将来就くことになる職業は、技術革新・グローバル化の進展等の影響により大きく変化することが予測されており、今の子どもたちの65%以上は、今は存在していない職業に就くと言われている。変化の激しい今の時代を力強く生きるために、一人ひとりが「生きる力」を身に付け、しっかりとした勤労観・職業観を形成・確立し、それぞれが直面するであろう多様な課題に柔軟にかつたくましく対応することが大切である。「基礎的・汎用的能力」を育むことを主な目的としているキャリア教育を、日頃の教科等の学習の中で実践し、今の時代を力強く生きていける児童を育てたいと考え、このような主題を設定した。

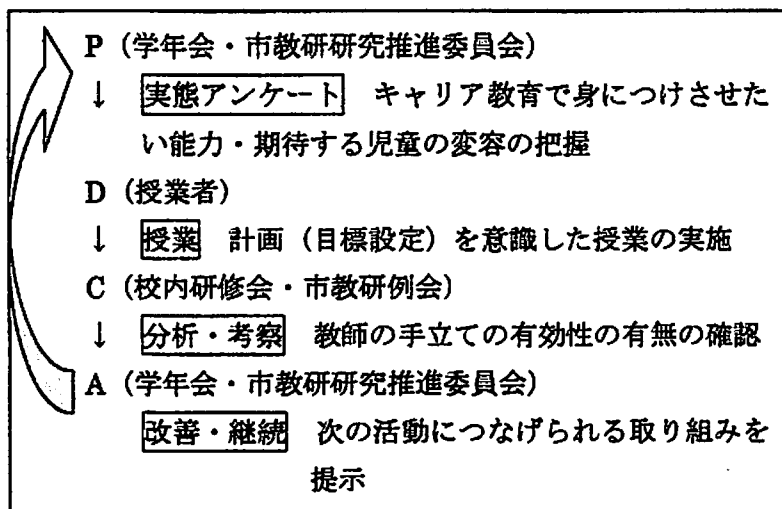
現在勤務する千葉市立花見川第三小学校は、花見川団地の西側に位置し、周囲を集合住宅で囲まれている。団地内に住んでいる児童が大半を占め、ほぼ同じ居住環境で生活している。共働きをしている家庭や、母子父子家庭、保護を受けている家庭が多い。経済的に厳しく、やってみたいこと、挑戦したいこともできない環境の児童もいる。

また、本校は一時期、在校人数が約1500人と大規模校だったが、年々児童数が減り、今年度は全校児童数が100人を割っている。しかし人数が少ない分、高学年の児童では、委員会の委員長や縦割り活動のリーダーなど、学校で活躍するチャンスが他の学校と比べて多い。これを生かし、各行事や教科・領域の学習にキャリア教育の視点を取り入れた指導を計画的に行えば、児童が自信を持ち、何事にも前向きにチャレンジできるようになるのではと考えた。

3 研究仮説

PDCA サイクルを意識したキャリア教育を実践することにより、自分も他者も大切にし、前向きにチャレンジする児童を育成できるだろう。

これまでのキャリア教育の研究では、学級の児童の実態を主観で捉え、基礎的・汎用的能力の中からどの力を中心に育みたいか判断してきた。また、授業研究をした後の児童の「見取り」や教育活動の「点検」といった、評価や改善もしっかりできていなかったと感じている。そこで、本研究では、授業研究だけではなく、児童の現状を的確につかむためのアンケートの設問や、授業後の評価についても研究する。また、評価の結果、目指していた児童の姿により近づけるにはどうすればよかったのかをもう一度考え、新たな計画を立てる(図1)。PDCA サイクルを意識してキャリア教育を進めることで、児童のキャリア発達をより促せるのではないかと考えた。



【図1】PDCA サイクルの流れ

4 研究の内容と実践

(1) 4年生の実践

本校では、中学年のキャリア教育の目標を以下のように設定した。

かかわる力	友だちと協力して活動することができる。
みつめる力	自分の持ち味を知り、生活に生かそうとすることができる。
うごく力	計画を立て、自分から進んで調べるすることができる。
みとおす力	めあてや目標を決めて、自分から取り組むことができる。

この目標を達成するために、まず児童の実態調査を実施した。結果は以下のようになった。

		質 問 の 内 容	結 果
か か わ る 力	1	友だちや先生の話をしっかり聞いていますか。	2.9
	2	相手にわかるように話していますか。	3.4
	3	友だちの気持ちを考えて、行動していますか。	3.1
	4	まわりの人と力を合わせて行動していますか。	3.6
み つ め る 力	5	自分のよいところはどんなところか、知っていますか。	2.7
	6	自分のなおしたいところはどんなところか、知っていますか。	3.6
	7	自分のめあてや目標に向かって、毎日の生活の中でがんばっていることはありますか。	3.4
	8	自分のよいところを、伸ばそうとしていますか。	2.9
う ご く 力	9	明日の準備や次の学習の準備ができますか。	3.4
	10	わからないことがあったら、自分から聞けますか。	3.3
	11	わからないことがあったとき、だれに聞けばいいかわかりますか。	3.3
	12	今、一番最初に何をすればいいか決められますか。	2.7
み と お す 力	13	学校やお家の生活において、がんばることを決められますか。	3.1
	14	今の生活や学習が、将来、自分の役に立つと思いますか。	3.4
	15	当番や係りの仕事、家でのお手伝いを積極的にやっていますか。	3.5
	16	自分の将来について、夢や希望をもっていますか。 (こんな仕事がしたい・こんな人になりたい)	3.8

※「結果」は、4年児童（16人）の平均値。4点が最高値。

アンケートの結果から、児童は、自分の持ち味やよいところは、あまり理解していない、もしくは自信がもてていないと考えた。一方で、自分の短所はよく知っていて、直したいと考えている児童が多い。これは、今までの経験から、学校や家庭で「ここができていない。」「ここを直しなさい。」と言われることは多かったのに対し、「君のこんな点が素晴らしい。」「ここはよくがんばっている。」と認められることが少なかったことが考えられた。また、児童の実態を見ても、「自分の持ち味を知り、生活に生かそうとする」という目標とする姿までにはまだ差があるように感じられた。

そこで、4年生の年間指導計画【資料2】から、「みつめる力」を中心にキャリア教育の断片を洗い出し、各教科や領域の学習の中で実践した。

(ア) 4年生の実践①

体育科 「跳び箱運動」(人間関係形成・社会形成能力)

1 児童の実態と学習の手立て

事前に行った実態調査から、台上前転は1段でも半分以上の児童が、開脚跳びでも縦5段だと半分近くの児童ができないということが分かった。

台上前転だけを見ていると、腰が上がらない・まっすぐに回れないなど、できない児童にはそれぞれの課題が見られた。そこで学習の中に「研究タイム」を設定した。①技のポイントを再確認すること、②うまくできない児童がグループの友達に相談してアドバイスをもらうこと、③技をさらに安定して・大きくできるようになるにはどうすればいいか話し合うこと、の3点をねらいとした。

2 キャリア教育との関わり

人間関係形成・社会形成能力を育む上で、「研究タイム」を設定した。相談をする立場だと自分の悩みや思いを具体的に相手に伝える必要がある。また、アドバイスしてくれる友達の話をよく聞き、技のポイントを理解する。相談を受ける側は、友達が何に困っているのかを正確に理解する。そこから解決策を考えて、相手にわかりやすく伝える。できなかった児童ができるようになった時に、アドバイスをくれた人に感謝の気持ちを持てること。また、アドバイスをした児童が自分のことのようにそれを喜べるまで高めていきたいと考えた。

3 学習の道すじ(本時の詳細については【資料4】をご参照ください。)

時記	1	2	3	4	5(本時)	6
0 ↓ 45	オリエンテーション	つながる運動				
		開脚とびのめあて学習		台上前転のめあて学習		
		「研究タイム」				
		開脚とびのめあて学習		台上前転のめあて学習		
		まとめ			まとめ	

4 成果と課題

	開脚跳び				台上前転	
	縦		横		1段	3段
	3段	5段	3段	5段		
学習前	81%	56%	69%	63%	43%	19%
学習後	100%	94%	81%	81%	100%	88%

○「研究タイム」では、①～③のねらいについて児童の学習カードの記述を分析して、練習の場を自由に設定できるようにした。結果、様々な練習の場が作られ、できなかった児童ができるようになると、グループのみんなですぐ喜ぶ姿が見られた。

○教える側も、感謝されることで、自己有用感を高めることができた。

●「みんなで開脚跳びと台上前転ができるようになる」という目標でがんばっていたので、それ以上技を広げられなかった。

(ウ) 4年生の実践③

総合的な学習の時間 「1/2成人式をしよう」(各基礎的・汎用的能力)

1 児童の実態と学習の手立て

10年間の自分の成長を振り返ったり、これからの自分について考えたりするこの題材は、絶好のキャリア教育の機会である。児童は2年生のときに生活科の学習で生まれてからの自分を振り返っているのだから、ここでは、自分の成長を支えてくれた人に気付かせ、感謝の気持ちをもてるような学習にしたいと考えた。

2 学習の道すじとキャリア教育との関わり

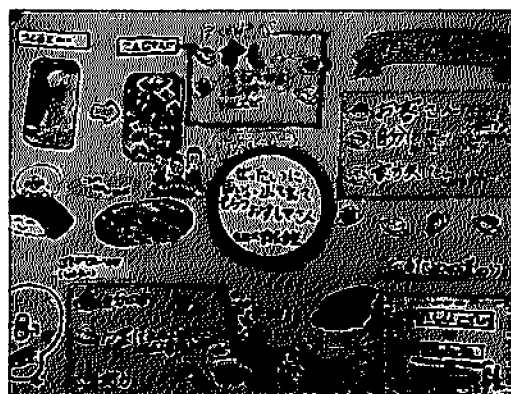
テーマ	学習内容	関連するキャリア教育の力
大人になるってどういうこと?	ウェビング、話し合い	
お家の人の仕事	お家の人の話を聞く、インタビューをする	人間関係形成・社会形成能力
わたしの夢	ドリームマップの作成	キャリア・プランニング能力
わたしを支えてくれている人	話し合い	自己理解・自己管理能力
1/2成人式の計画を立てよう	話し合い、プレゼントや手紙の作成	課題解決能力
1/2成人式をしよう(※)	発表	人間関係形成・社会形成能力
活動を振り返ろう	ポートフォリオ作成	自己理解・自己管理能力

活動のくわしい様子については【資料7】をご参照ください。

※1/2成人式について

どんな式にしたいか、児童と一緒にプログラムを考え、以下のように設定した。

1. はじめの言葉
2. 10歳の決意
3. ドリームマップの発表
4. お家の人との交流
 - ・手紙交換
 - ・プレゼント
5. 合唱
6. 担任の先生から
7. おわりの言華



それぞれの夢を1人2分で発表しました。

3 成果と課題

- 1/2成人式は、どんなプログラムにするのかを児童と一緒に考えたことにより、一つひとつの内容に強い思いを持って臨むことのできた児童が多かった。
- 学習後の児童のポートフォリオを見てみると、「自分たちで式のプログラムを考えられたからよかった。」という意見が多く挙がっていた。来年度以降も同じ方向で行いたい。
- 題材がそうであったためか、全ての時間にキャリア教育を取り入れようとして欲張りすぎた。ねらいをもう少し絞った方が、指導も工夫できたのではないかと反省している。

(エ) 4年生のキャリア教育の振り返り

(A) 実態調査の数値から (質問内容については2ページをご参照ください。)

		事前	事後
かかわる力	1	2.9	3.1
	2	3.4	3.3
	3	3.1	3.1
	4	3.6	3.6
みつめる力	5	2.7	3.1
	6	3.6	3.4
	7	3.4	3.3
	8	2.9	3.1
うごく力	9	3.4	3.1
	10	3.3	3.3
	11	3.3	2.9
	12	2.7	2.9
みとおす力	13	3.1	2.9
	14	3.4	3.4
	15	3.5	3.3
	16	3.8	3.8

数値が上がっているのは、「みつめる力」である。特に質問5「自分のよいところはどんなところか知っていますか。」という項目については、事前のアンケート結果から今年度の課題としてきたこともあり、数値が伸びた。

一方で「うごく力」は、事前のアンケートと比べると下がってしまった。具体的には「何かをするときに、先のことを考えて計画的にとりくんでいますか。」「たくさんの情報の中から、その時の自分に必要な情報を選ぶことができますか。」という2つの項目が下がっている。1年間を振り返って、計画を立てたり、情報を取捨選択したりする活動はしてこなかったわけではないが、原因の1つとして、指導する側が問題意識を持ち、「この力をつけるためにはどうすればよいか。」と考えてこなかったことが挙げられる。

また、事前も事後も数値が一番高かったのは、16番の「自分の将来について、夢や希望を持って言えますか。」という質問だった。このまま将来に夢や希望を持って高学年になってくれば、意欲をもって学校生活を送ることができるのではないかと期待している。

(B) 中学年のキャリア教育の目標から

	中学年の目標	児童の様子と成果・課題
かかわる力	友だちと協力して活動することができる。	○様々な行事や休み時間の遊びなどを通し、児童は友だちと協力することのよさを実感できたように感じる。 ●一部には、自分のことを優先してしまい、友だちを傷つけてしまう言動がまだ見られる。今後の課題としたい。
みつめる力	自分の持ち味を知り、生活に生かそうとすることができる。	○「きらり☆みつけ」や、その事後の学習を通して、児童は自分の長所や持ち味を見つけることができた。また、友だちによさを認めてもらえたことにより、自己有用感を高められた。 ○まわりの人の役に立ちたいという、意欲的な活動が出てきた。
うごく力	計画を立て、自分から進んで調べることができる。	●例えばドリームマップの作成に向けて職業調べをする際、いきなりCP室に行っても、何をしたいのかわからない児童が多くいた。どんな目的で・何を・どうやって調べるのかを明確にするなど、調べる計画の立て方についての指導が足りなかった。
みとおす力	めあてや目標を決めて、自分から取り組むことができる。	○各行事や体育をはじめとする各教科の学習において、めあてを立てて取り組んできた。児童もめあてを立て、そこに向かって努力することの大切さを理解してきたように感じる。 ●「自分から」という部分についてはまだ達成率が低いと感じる。

(2) 6年生の実践

本校では、高学年のキャリア教育の目標を以下のように設定した。

かかわる力	まわりの人と協力する中で、かかわりを深めることができる。
みつめる力	役割を自覚し、集団の中で自己を生かすことができる。 →自分を大切にし、よさを生活の中で生かすことができる。
うごく力	課題を見つけ、解決するために計画的に取り組むことができる。
みとおす力	めあてや目標を決めて、自分を高めようと努力することができる。

この目標を達成するために、まず児童の実態調査を実施した。結果は以下ようになった。

		質 問 の 内 容	結 果
か か わ る 力	1	話を聞くときに、相手の気持ちを考えていますか。	2.8
	2	相手にわかりやすく、自分の考えを伝えていますか。	2.7
	3	周囲の雰囲気を感じて判断しようとしていますか。	3.1
	4	まわりの人と力を合わせて行動していますか。	3.4
み つ め る 力	5	自分の長所がわかりますか。	2.2
	6	自分の短所がわかりますか。	3.4
	7	自分の目標に向かって、毎日の生活の中で努力していますか。	3.0
	8	自分の良さを生活の中で生かそうとしていますか。	2.2
う ご く 力	9	何かをするときに、見通しを持って計画的に取り組んでいますか。	2.4
	10	わからないことがあったら、自分から進んで調べていますか。	3.4
	11	集めた情報の中から、その時の自分に必要な情報が選べますか。	3.1
	12	やるべきことの中から、優先順位をつけて行動していますか。	2.8
み と お す 力	13	生活や学習において、目標を立てて取り組んでいますか。	2.8
	14	今の生活や学習が、将来に役立つと思いますか。	3.2
	15	委員会の仕事や当番や係の仕事、家でのお手伝いを積極的にやっていますか。	3.0
	16	自分の将来について、夢や希望を持っていますか。 (こんな仕事がしたい・こんな人になりたい)	3.4

※「結果」は、6年児童（18人）の平均値。4点が最高値。

アンケートの結果を見ると、全体的に（1年前の）4年生よりも数値が低いことがわかった。発達段階の要因もあるが、このことから、慎重で、なかなか自信を持って「できる」と言えない6年生の姿が想像できた。また、4年生と同じように質問5・6に注目してみると、自分の短所はよくわかっているのに、長所はよくわからないという傾向がより顕著になっている。そのため、質問8も数値が低くなっていた。

6年生はやさしい児童が多く、1年生の世話も積極的に行っている。しかし、集団での活動になると消極的になってしまい、学習でもなかなか手を挙げられない児童が多い。

アンケートの結果や児童の実態を考えた時、当初立てた「みつめる力」の目標を目指すことは、6年生の実態と合っていないと判断した。そこで、上の表のように目標を修正した。

1 児童の実態と学習の手立て

1年生の頃から単学級だったこともあり、児童はお互いのことをよく知っている。やさしい児童もいる反面、自分のことを中心に考え、周囲への関心が薄く、周囲への配慮が苦手な児童も多い。話し合い活動は、学級全体だとなかなか自分の意見を言えない児童も多いが、小グループだと活発な意見の交換も見られる。

これらの実態を踏まえ、本題材の学習では、小グループでの活動に重点を置き、児童の「人間関係形成・社会形成能力」を中心に育みたいと考えた。また、自分の得意なことを広げたり、深めたりしながら、将来につなげるという題材の特性から、他の「基礎的・汎用的能力」も高めていきたいと考えた。そこで、以下のような道すじで学習を進めた。

2 学習の道すじとキャリア教育との関わり(本時の詳細は【資料8】をご覧ください。)

A 人間関係形成・社会形成能力 B 自己管理・自己理解能力 C 課題対応能力 D キャリアプランニング能力

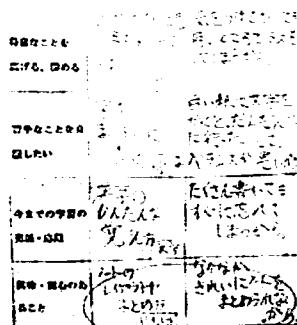
小単元名 【場面】	時	学習内容	指導上の留意点	キャリア 教育で育 む力
学習への意欲 を持つよう	1	・ガイダンスの中で、卒業研究の意義と流れについて知る。	・卒業研究の目的や見通しについてよく理解させ、意欲を高めるようにする。	
自分を見つめ、テーマを決定しよう 【課題設定】	3	・夢や得意・不得意なこと、興味のあることなどの中から、研究テーマを決定する。 ・テーマについて担任と面談を行う。	・子どもたち一人一人と面談をする。その際、子どもの実態を考慮しながら、適切なテーマを設定できているか判断し、アドバイスをする。	B 自己 D キャリ
計画を立てて課題を追及しよう 【情報収集】	20	○1次研究 ・1年間の研究計画を立てる。 ・夏休みの研究計画を立てる。(本時) ・課題に沿って調べ学習や取材、体験活動などを行う。	・子どもが立てた計画が長期の研究に耐えられるものかどうか判断し、アドバイスをする。 ・お世話になる方への礼儀やあいさつについて指導する。	A 人間 社会 B 自己
	6	○中間報告会 ・報告会に向け、これまでの活動をまとめる。 ・報告会に向けて、発表の練習をする。 ・報告会で挙げた課題や今後の方向性を整理する。	・これまでの研究の足跡が伝わるような発表ができるよう声をかける。 ・発表内容にたいするフィードバックをし、今後の研究に意欲をもたせるようにする。 ・研究内容だけでなく、発表態度についてもアドバイスをする。	C 課題 対応
	18	○2次研究 ・今後の研究計画を立てる。 ・計画を基に2次研究を行う。	・1次研究を補える内容か、ゴールを想定できているか判断し、アドバイスをする。	
研究をまとめて、発表準備をしよう 【整理分析】	4	・集めた情報や体験した内容を整理する。 ・研究発表会に向けて準備をする。	・集めた情報全てをそのまま活用するのではなく、必要な情報を抜き出したり、自分の言葉に置き換えたりするよう声をかける。	A 人間 社会 C 課題 対応
研究発表会をしよう 【まとめ・表現】	8	・研究の取り組みの過程やわかったことについて発表する。 ・友達の発表を聞き、感想を伝え合う。	・取り組みや発表内容の良かったところを褒め、子どもの今後の自信につながるようにする。	A 人間 社会 C 課題 対応
生活に生かそう【まとめ】	1	・これまでの研究を振り返り、今後の生活や学習に生かす。	・子どもの成長を認め、今後の生活や学習に生かせるように声をかける。	B 自己 D キャリ

3 実践の様子

(1) テーマ設定

61 時間かけて学習する題材である。全員が最後までやり遂げられるように、テーマ設定は慎重に行わせたいと考えた。そこで、ワークシートを準備し、「夢の実現」「得意なことを広げる・深める」「苦手なことを克服する」「今までの学習の発展・応用」「興味・関心のあること」の中から自分に合ったテーマを選ばせた。また、考えたテーマについて、一人ひとりと個人面談をする機会を持った。

テーマ設定に用いた学習カード



(2) 小グループの設定

全活動を通じて、少人数の同じメンバーと継続的に活動することにより、友だちのことを深く

設定した小グループの例			
男：ソフトボール投げの記録を伸ばすには	男：お手玉を作り、難しい技に挑戦する	女：栄養を考えたいおいしいジュースを作る	女：フラダンスが上手になるには

く考えたり、親身になってアドバイスしたりする姿が見られるようになることを目指した。グループを編成する上で、①類似するテーマを設定した児童をバラバラにすること、②男女のバランスを考えて編制すること、の2点に留意した。

(3) 小グループでの話し合い活動

毎時間の活動後の進捗状況報告、夏休みや2次研究前の打ち合わせなど、小グループで話し合う時間を大切に活動した。研究の進め方、やっておいた方がよいことなど、様々な話し合いがされていた。また、進捗状況報告会を行うたびに話し合いの質も高まり、研究が遅れがちだった児童がグループの友だちに進んでアドバイスを求める姿も見られた。さらに、グループ内で全く内容の異なる研究をしている児童どうしても、同じくらいのレベルでの専門的な話し合いも見られた。



付箋を使って話し合う様子

4 成果と課題（基礎的・汎用的能力の視点で）

人間関係形成・社会形成能力については、小グループでの話し合い活動や、それぞれの研究でお世話になった家族や専門家など、様々な人との関わりの中で育むことができたのではないかと考える。特に小グループ活動を通し、児童は相手のことを親身になって考えることのよさに気づくことができた。

自己理解・自己管理能力については、テーマ設定の場面と最後の振り返りの場面で意識して指導した。児童は自分を見つめ、好きなことややりたいことを見つけたり、それに向かって頑張った自分を振り返ったりすることができた。

課題対応能力については、本題材全体を通じて育むことができた。

キャリアプランニング能力については、特に振り返り活動の中で、本題材を通してできるようになったことを自信に、これからの自分について考えることができた。

ファミリーでの活動は、迷ったときに、ファミリーに相談できるのがとても助かりました。また、中間報告会でもファミリーの入はきびしく言ってくれたので、改善しやすかったです。また近くどこまで進んでいるのかを定期的にチェックしてくれる人がいたので常にきんちょう感を持って卒研に取り組めました。

(1) 研究主題について

実態をもとに、低・中・高学年ごとに具体的な目標を設定するなど、計画を綿密に立てたことにより、いつ、どんな力をつければよいのかが明確になった。例えば4年生では、「きりり☆みつけ」の学習で自己有用感を高めたり、「跳び箱運動」の学習では友達と協力することの大切さを知ったりしながら、年間を通して「自分も他者も大切にし、前向きにチャレンジする児童」を育成することができたのではないかと考える。

(2) 研究仮説について (○は成果、●は課題)

<p>P (計画の段階)</p>	<p>○全体計画の見直し→各学年の年間指導計画の見直し→各学年の実態把握→年間計画からのキャリア教育の断片の洗い出し、といった具合に、実践に向けて資料を参考に準備をすることができた。特にアンケートについて研究した結果、児童の実態をより具体的に知ることができ、実践する際に目標を立てやすくなった。</p> <p>●年度のはじめと終わりで児童の実態が変わってきている。全体計画や年間指導計画について、もう一度見直し、来年度の児童に合った計画を立てることで、今後も児童のキャリア発達を促していきたい。</p>
<p>D (実践の段階)</p>	<p>○各教科や総合的な学習の時間、特別活動において実践を行うことができた。各単元やその時間の学習ごとに、児童につけたい力を意識できたので、発言も多少変わってきたと考える。つけたい力を意識した学習カードや資料も研究できた。</p> <p>●各教科での実践が少なかった。今後は積極的に研究していきたい。また、単元や題材によっては、いろいろな力を児童につけたいと欲張りすぎてしまったものもあり、結果、児童につけたい力がつけられたのか、評価もあいまいになってしまった。無理のない範囲内で計画的に実践することの大切さを知った。</p>
<p>C (評価の段階)</p>	<p>○計画の段階で児童について知るための「ものさし」を作成したので、どの力がどのくらい伸びたのかが、把握しやすかった。また、定量的な評価だけでなく、定性的な評価や、題材によってはポートフォリオを活用した評価も取り入れられた。</p> <p>●評価のタイミングについて。全体的なアンケート調査が、結局最初と最後だけになってしまった。途中で児童の変容を見取っていれば、そこから計画を修正できたのではないかと反省している。計画の段階で、いつ評価を実施するのかを明確にしておくべきだった。</p>
<p>A (改善の段階)</p>	<p>○新年度を前に、全体計画や各学年の年間計画を見直すことができた。</p> <p>●学校全体としてキャリア教育を研究しているわけではないので、全教職員で、キャリア教育を通して児童に身に付けさせたい力が共有しきれていない。また、年度が変わる時に、しっかりとした引継ぎができていない。結果、前年度にやってきたことが翌年に生かされていないこともあり、もったいないと感じる。次年度は、はじめにしっかり提案し、共通理解を図りたい。</p>

以上のことから、PDCA サイクルを意識したキャリア教育を実践したことにより、各学年に設定した目標をある程度達成できたのではないかと感じる。一方で、年度間の引継ぎや職員の共通理解など、これからの課題も見えてきた。これからも研究を続け、児童のキャリア発達を支援していきたい。

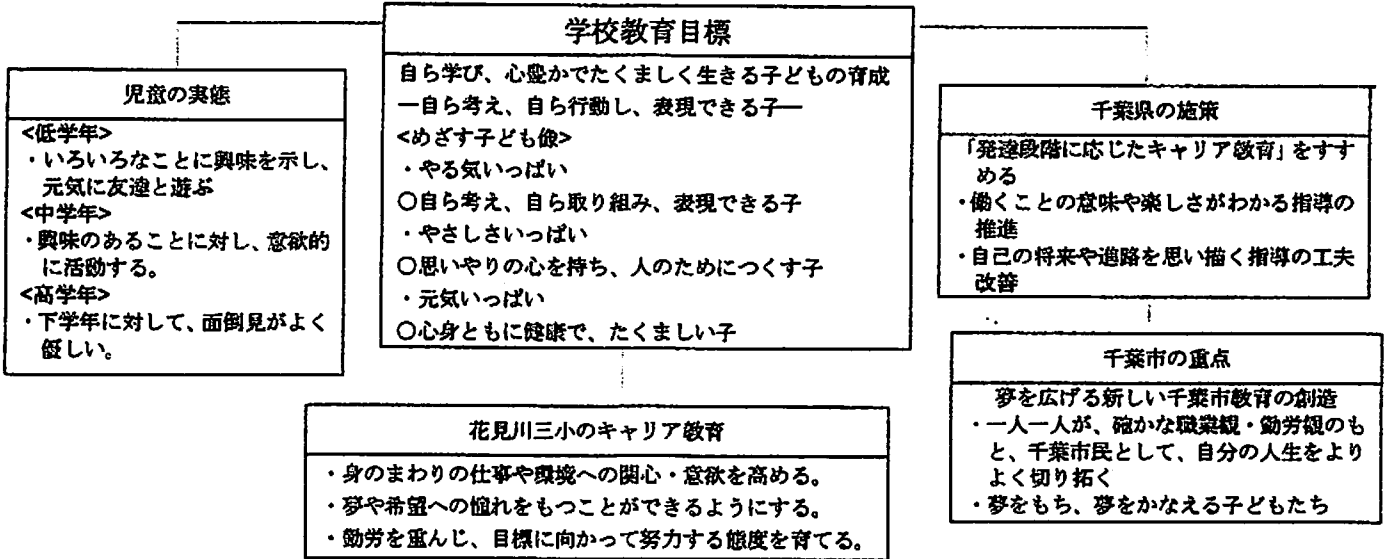
<参考文献>

『キャリア教育資料集』

職業教育実践研究センター・道徳指導研究センター

資料

資料1	千葉市立花見川第三小学校 キャリア教育全体計画
資料2	4年生の年間指導計画
資料3	6年生の年間指導計画
資料4	4年生体育科「跳び箱運動」 学習指導案
資料5	4年生特別活動「きらり☆みつけ」学習指導案
資料6	「きらり☆みつけ」学習カード
資料7	4年生総合的な学習の時間「1/2成人式をしよう」 学習の様子やドリームマップ（写真資料）
資料8	6年生総合的な学習の時間「卒業研究」 学習指導案



花見川三小のキャリア教育の3つの柱		
日常的なキャリア教育	教科・領域と関連したキャリア教育	縦割集団・地域の方々、ボランティアとの交流によるキャリア教育
発達段階に応じた基本的な生活習慣の確立を目指す。	教科・領域において、生き方の学習や、職業や産業に関わる単元や題材をキャリア教育の視点で位置づけ、発達段階に応じたキャリア教育を促す。	教科・領域で学んだことを地域の方々との交流を生かし、コミュニケーション能力を高め、生きる力を育む。
《あいさつ》 《返事》 《人の目を見て話を聞く》 《当番活動》 ・日直…一日の学級の動きを管理する力 ・給食…マナー・衛生に気を付けて配膳・会食をする習慣の育成 ・清掃…自分の役割を意識して責任を果たす力 《係活動・班活動》 ・構成メンバーが互いに協力して学級全体を向上させる力 《委員会活動》 ・学校全体がより良く生活や学習ができるように所属する委員会の責任を果たす力 《児童会活動》 ・自治的活動を通して、自分たちの生活を改善・向上させる力 《クラブ活動》 ・他と協力して、クラブ運営をする力 ・より高い技能習得のために、目標に向かって努力する力	1年 ・学校探検で、学校にいる人々に関心を持ち、いろいろな人と関わる楽しさを味わう。 ・家の手伝いをする中で、家族の一員としての役割を知る。 ○道徳…「かたたき」「わたしのしごと」	[6年生を送る会] ・6年生に対する感謝の気持ちと祝福の気持ちを育てる。
	2年 ・野菜作りを通して、育てることの大変さや収穫したことの喜びを味わう。 ・自分の住む地域を探検する活動を通して、いろいろな仕事に従事している人に接し、たくさんの人に見守られていることに気付く。 ・「今のわたし、これからのわたし」の学習を通して、自分について見つめ、大きくなったときの自分の夢を持つ。 ○道徳…「おんぶしてくれ」「おとなになったら」	[読み聞かせボランティア] ・様々な人との交流を通して、コミュニケーション能力を育てる。
	3年 ・スーパーマーケット、工場の仕事について、実際に見学を行い、働く人々の工夫や努力、願いや喜びにふれる。 ○道徳…「お母さんお手紙書きますよ」「ゆめにむかって」	[学習発表会] ・様々な人を相手に発表をすることを通して、コミュニケーション能力を育てる。
	4年 ・清掃工場・浄水場を見学し、生活との関わりや仕事の大切さを学び、そこで働く人々の工夫や努力、願いや喜びを理解する。 ・千葉県の発展に尽くした人々を学習し、携わる人々の工夫や努力、願いや喜びを理解する。 ○道徳…「日本のお父さん・お母さん」「14歳の気象予報士」	[なかよしタイム] ・異学年集団での活動を通して、交流を深め、リーダーとしての意識や仲間意識を育てる。
	5年 ・福祉体験を通して、自分たちにできることを見つけたり、介護する努力や工夫をみつけたりする。 ・移動教室で、作業等の先生や職員の方との触れ合い、コミュニケーションをとる。 ・朝日新聞社、築地市場の見学を通して、職業への関心を高める。 ・英語活動を通して、多様なものの見方、考え方を知り、コミュニケーションを図る。 ○道徳…「はじめてのアンカー」「わたしの夢」	[各学年の校外学習] ・目的地で施設の人との交流を通し、キャリア教育を視野に入れた活動を展開する。 ・バスの運転士さんやガイドさんの仕事について理解し、挨拶やお礼などのコミュニケーションをとる。
	6年 ・農山村留学で、作業等の先生や職員の方との触れ合い、コミュニケーションをとる。 ・国会議事堂の見学を通して、国会議員の仕事を知ること、自分の生き方を考える機会とする。 ・英語活動を通して多様なものの見方、考え方を知り、コミュニケーション能力を図る。 ○道徳…「まゆみちゃんと私」「園学の書を探して」	

キャリア教育でつけた能力と期待する児童の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・社会関係・人間関係形成能力(かかわる力) … 友達や教師、地域との関わりの中に進んでコミュニケーションがとれる児童 ・自己理解・自己管理能力(みつめる力) … 係や当番活動に主体的に取り組もうとする児童、自分の長所を自信をもっていえる児童 ・課題解決能力(うごく力) … 生活や学習の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする児童 ・キャリアプランニング能力(みとおす力) … 将来の夢や目標に向かって、計画をしっかり立て、前向きに取り組む児童 ・学習意欲… 学ぶこと・働くこと・生きることへのつながりを考え、将来とのかかわりから、「今学んでいることの大切さ」を理解することで、自ら学ぼうとする意欲をもつ児童
-------------------------------	--

資料2

花見川第三小学校 キャリア教育年間指導計画

ゴシック太字：キャリア教育と関連する単元 (①かかわる力 ②みつめる力 ③うごく力 ④みとおす力)

第4学年

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
行事	○前期発表式 ○入学式①② ○遊程訓練	○全校通足①③④ ○1年生を拜える会 ○運動会①③④	○プール開き② ○学習参観 ○校外学習④	○出し物大会 ○なかよし給食祭 ○運動参観①④	○引き渡し式		○学習参観 ○芸術鑑賞会④	○学習発表会④	○夏休み ○大掃除	○校外学習①② (きぼーる) ○餅つき会	○長期大会① ○6年生を送る会②	○卒業式②③④
き ら り	水について考えよう①②③									1/2成人式をしよう①②③④		
	課題設定	情報収集				整理分析	まとめ・表現		課題設定	情報収集	整理分析	まとめ・表現
特 活	○委員会・クラブを決めよう ○なかよし活動について考えよう①	○運動会に向けて準備しよう①④	○プール開きの準備をしよう ○校外学習に行こう①③④	○夏休みの計画を立てよう②③ ○消防署見学に行こう④		○夏休みを振り返ろう	○保護者や出番活動を見直そう④	○夏休みや持ち味について考えよう② ○夏休みを生活に生かそう②④	○冬休みの計画を立てよう	○新年の目標を決め、発表しよう④	○6年生を送る会に向けて準備をしよう①③	○1年間を振り返ろう②④
道 徳	○学校のルールを決めよう①	○教室はまがうところだ② ○10歳のプレゼント	○チェック・チェック・チェック ○はくしゅ	○はたの星 ○シャツのちぎれたメダカ②		○なくなったまさかり ○きまり文句	○おばさんの長寿祝い ○「ガイズン」とよばないで①	○おじいさん、どうぞ ○こう言ってほしいな	○おならびなさい ○ぼくは言えなかった	○おわが、協力して ○わたしたちの道徳④	○大の山のおじいさん ○絵をかくのが大好き②	○14歳の誕生日に ○気持ち、とってもいい友達
国 語	○言葉を広げよう ○想像を広げて日記を書こう④	○想像を広げて日記を書こう④ ○漢字の広場	○わかったことを説明しよう①	○わかったことを説明しよう① ○漢字辞書の引き方	○漢字の広場	○そろそろ① ○言葉が表す感じ ○修飾語	○季節新聞を作ろう①④ ○一つの花	○読書をもったことをしようかいしよう③	○ごんぎつね ○「読書発表会」をしよう	○日本の文化に親しもう ○「便利」ということ ○詩を楽しもう	○経済のでき方 ○「便利」ということ ○詩を楽しもう	○様子がいかによ ○言葉を選んで書く ○お返事をしよう
社 会	○安全をくらしを守る④	○健康をくらしをささえる④	○健康をくらしをささえる④	○健康をくらしをささえる④	○事件、事故をふせぐ	○事故、事件をふせぐ	○千葉市の発展につくした人たち	○千葉県的位置 ○千葉県の土地のようす	○わたしたちの県	○千葉県の文化や伝統を生かして	○千葉県の発展につくした人々④	○千葉県をもっと知ろう
算 数	○角とその大きさ ○1けたでわる割り算のひっ算	○折れ線グラフ ○1位をこえる数	○1位をこえる数 ○垂直・平行と四角形	○小数 ○式と計算の順じよ	○小数	○式と計算の順序 ○2けたでわるわり算のひっ算①	○そろばん ○面積	○がい数とその計算 ○小数×整数	○小数×整数 ○小数÷整数	○調べ方と整理のしかた① ○分數	○変わり方 ○直方体と立方体	○だれでしょう ○もうすぐ5年生②
理 科	○季節と生き物(春)	○天気と気温① ○電池のはたらき	○電池のはたらき ○とじこめた空気や水	○とじこめた空気や水 ○季節と生き物(夏)	○季節と生き物(夏の終わり)	○季節と生き物 ○わたしたちの体と運動②	○星や月 ○季節と生き物(秋)	○わたしたちの理科室 ○もののはたらきと体位	○もののはたらきと体位 ○もののはたらきと体位	○星や月 ○季節と生き物(冬)	○すがたをかえる水	○自然の中の水
音 楽	○明るい歌声をひびかせよう	○明るい歌声をひびかせよう	○絵のぬれに乗ってリズムを感じ取るう①	○絵のぬれに乗ってリズムを感じ取るう①	○せんりつのとくちょうを感じ取るう	○せんりつのとくちょうを感じ取るう	○せんりつのもちやうを感じ取るう	○せんりつのもちやうを感じ取るう	○いろいろな音のひびきを感じ取るう	○日本の音楽に親しもう	○向の気分を感じ取るう	○向の気分を感じ取るう
図 工	○絵の具で遊んで	○絵をかき会「よさこいを踊る友だち」	○絵をかき会「よさこいを踊る友だち」	○みんなでどんどん、むすんでつないで		○おもしろアイデアボックス②	○ギョギョクリエーター	○ギョギョクリエーター	○ほって、すって見つけて	○おせき運ぶカード③	○おせき運ぶカード③	○ゆめいろランプ ○ゆめいろらんぶ
体 育	○多様な動きを作る運動① ○マット運動②	○表現運動(運動会に向けて)①③	○水泳学習②③	○水泳学習②③	○高跳び	○飛び箱運動① 高跳び	○飛び箱運動①	○団体運動 ○ハードル走	○ボートボール ○体操「そだちゆく体とわたし」②	○タグラグビー ○体を移動、用具を操作する運動	○グッドラッカー ○体を移動、用具を操作する運動	○基本的な動きを組み合わせる運動

中学年の目標

※ は、今回の研究で特に力を入れるところ

①かかわる力	友だちと協力して活動することができる。	③うごく力	計画を立て、自分から進んで調べることができる。
②みつめる力	自分の持ち味を知り、生活に生かそうとすることができる。	④みとおす力	めあてや目標を決めて、自分から取り組むことができる。

資料3

花見川第三小学校 キャリア教育年間指導計画

ゴシック太字：キャリア教育と関連する単元 ①かかわる力 ②みつめる力 ③うごく力 ④みとおす力

第6学年

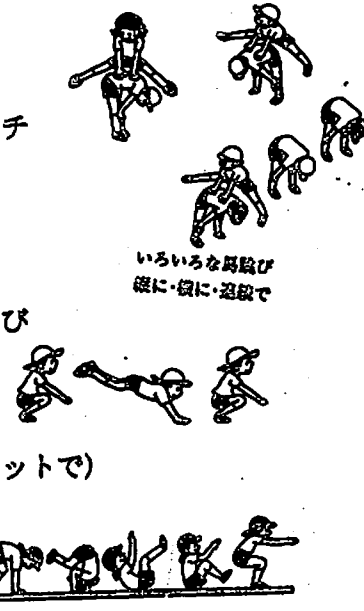
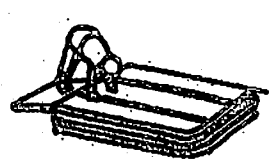

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
行事	○開校始式 ○入学式①② ○避難訓練	○全校運動①③④ ○1年生を迎える会 ○運動会①③④	○プール開き② ○学習参観	○川上大会 ○なかよし給食活動	○引き放し訓練	○校外学習 (国会・昭和館) ②④	○学習参観 ○技術発表会④ ○陸上大会④⑤	○島山村習字①②③ ○学習発表会	○避難訓練 ○図画教室④	○球技大会①②④	○長縄大会① ○6年生を送る会②	○卒業式②③④
きらり	中学校へのエントリーシートを作ろう									ONGAESHI		
	自己探ってむずかしい②		卒業研究で特技を見つけよう①②③④				わたしの場所って①②			活動計画立案①③		活動・園り廻り④⑤
特活	○委員会・クラブを決めよう ○なかよし活動の計画を立てよう③	○思い出に語る運動会をつくり上げよう①④	○学習のルールを全校に伝えよう ○委員会紹介を成功させよう④	○夏休みの計画を立てよう②③		○国会見学計画を立てよう④ ○陸上大会までのめてきてよう②	○思い出に語る島山村習字にしよう①②③ ○保護活動と災害準備を見直そう④	○異郷を生活に生かそう②④	○球技大会への取り組みで成長しよう①	○感謝の気持ちを表す計画を立てよう②	○卒業に向けて	○中学校生活に意欲を待とう
道徳	○山村とコトバ ○ロレンソの友情②	○ごみ出しまかせて ○阪そうそう	○同じ地球の子どもたち ○よみがえったおとこ②	○ほしって何? 必要って何?② ○留学の勇を求めて		○21世紀きになる人たちへ④ ○おはなすのめをみる	○オトちゃんルール① ○しらんぷりはできないよ ○ガンダムの私伝	○助け合って生きる① ○ガンダムの私伝	○粗しき仲にも礼儀あり ○まゆみちゃんとい私	○大と私の10の約束 ○こんなときどうする②	○木のいのち ○十二歳のメッセージ④	○へソのお話 ○卒業までの50日②
国語	○川家で伝えあおう	○陶器を盗んで、秘伝をもとにして密告 ○学校案内パンフレットを作る①④	○伝えたいことをすいせん文にまとめよう	○日本語のひびきを味わう ○価値を話し合おう①	○豊かな言葉の使い手になろう	○豊かな言葉の使い手になろう ○自分のもの見方や考え方を固めよう②	○意見を出し合おう	○漢字力のある文豪を書こう ○大切な本をしようかいしよう	○物語の世界を想像して書こう ○筆者の考えを読み、感想を書こう	○興味のある人物をしようかいしよう	○日本の文化を考えよう	○これまで、これから②
社会	○国文のむらから古墳のくにへ	○天皇中心の国づくり	○自族のくらし ○武士の殿の中へ	○今に伝わる室町文化 ○3人の武將と天下統一③	○江戸幕府と政治の安定	○江戸幕府と政治の安定 ○町人の文化と新しい学園	○明治の国づくりを促した人々	○長く続いた戦争と人々のくらし ○正しい日本、正しい日本へ	○子育て支援の願いを実現する政治	○国の政治のしくみ ○わたしたちのくらしと日本国憲法①	○世界の中の日本	○世界の未来と日本の役割
算数	○対称な図形 ○文字と式	○分数×分数 ○分数÷分数	○円の面積 ○比とその利用	○割合をあげて図で ○図形の拡大と縮小	○図形の拡大と縮小	○図形の拡大と縮小 ○長さ	○比例と反比例	○裏わり方を調べて① ○割合がわかるように利用して	○立体の体積 ○資料の調べ方	○割合を使って ○円の単位	○6年のまとめ	○6年のまとめ
理科	○わたしたちの生活と環境 ○ものの伝え方	○ものの伝え方 ○植物の成長と日光の回わり	○体のつくりとはたらき	○植物の成長と水の回わり ○おまじないの回わり	○月と太陽	○月と太陽	○水よう液の性質	○てこのはたらき	○土地のつくりと変化	○電気の性質とその利用③	○電気の性質とその利用③	○生物と地球環境
音楽	○豊かな歌声を聞かせよう	○豊かな歌声を聞かせよう	○いろいろな音の響きを味わおう①	○いろいろな音の響きを味わおう①	○和音の美しさを味わおう	○和音の美しさを味わおう	○和音の美しさを味わおう	○詩と音楽を味わおう	○曲想を味わおう	○日本と世界の音楽に親しもう	○心を込めて表現しよう③	○心を込めて表現しよう③
図工	○わたしの大切な風景	○わたしの大切な風景	○わたしの大切な風景	○限で表す	○限で表す	○くるくるクランク③	○くるくるクランク③	○筆あとと研究所②	○筆あとと研究所②	○筆あとと研究所②	○1枚の紙から	○1枚の紙から
体育	○からだほぐしの運動 ○マット運動④	○表現運動②	○短距離・リレー ○水泳③	○水泳③ ○保健学習	○保健学習	○走り幅跳び ○ハードル走	○競争運動③	○体力を高める運動 ○サッカー①	○表現運動	○体力を高める運動 ○保健学習	○バスケットボール①	○ティール

高学年の目標

※ は、今回の研究で特に力を入れるところ

①かかわる力	まわりの人と協力する中で、かかわりを深めることができる。	うごく力	課題を見つけ、解決するために計画的に取り組むことができる。
②みつめる力	自分を大切にし、よさを生活の中で生かすことができる。	みとおす力	めあてや目標を決めて、自分を高めようと努力することができる。

8 学習活動と支援（本時）

	学習内容と活動	教師の支援 評価（◇は体育科・◆はキャリア教育）
はじめ	<p>1 学習の場づくりをして、つながる運動を行う。</p>  <p>・ストレッチ</p> <p>・馬跳び</p> <p>いろいろな馬跳び 縦に・横に・逆股で</p> <p>・うさぎ跳び</p> <p>・前転（マットで）</p>	<p>○準備する場を決めておき、協力して行うように声をかける。</p> <p>○跳び箱運動で使う部位を念入りに行うように助言する。</p> <p>○手を強く突き放すことを意識させる。</p> <p>○腰を高くして速くへ跳び、少しでも空中に浮くようにして、手をついたらひざを素早く胸につけ、手に着いたところに着地するように助言する。</p> <p>○しゃがんだ状態からではなく、立って腰が高い状態から回るように助言する。</p> <p>○後頭部をマットにつけるように助言する。</p>
な	<p>今日のめあてを確認し、練習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>今できる跳び越し方で、大きく安定した動作で跳び越したり、練習の場を工夫し、新しい技に挑戦したりして楽しむ。</p> </div>	
か	<p>・本時の学習では、前時の学習を生かして台上前転を中心に取り組むことを確認する。</p> <p>・自分のめあてを確認し、ふさわしい練習の場に移動する。</p> <p><予想されるめあてと活動の例></p> <p>① 重ねたマットの場</p>  <p>② 階段跳び箱の場</p> 	<p>○自分で練習の場を選べない児童にアドバイスをする。</p> <p>○頭頂部で回っている児童には、マットの場で、正しく前転ができるように支援する。</p> <p>○「トン・トン・トーン」のリズムで腰を高く上げて跳ぶよう助言する。</p> <p>○慣れてきたら段差をつけて挑戦するように促す。</p> <p>○ピタッと着地をするよう助言する。</p>

な
か

③ 跳び箱にマットを重ねた場



④ 「試しの場」



3 グループで集まり、台上前転についての「研究タイム」を行う。

<予想される活動の例>

- ・もう一度技のポイントを確認し、メンバーができているかチェックする。



今日は跳び箱に後頭部をつけているかチェックし合おうよ。

- ・一人ずつが試技し、見ていたメンバーからアドバイスをもらう。

〇〇さんは、着地の時に足がそろったら、もっときれいになるよ。



- ・まだうまくできない児童がみんなに相談したり、実際にやってみてアドバイスをもらったりする。



どうしても跳び箱の直前で止まっちゃうんだよね。

もう少し階段跳び箱の場でやってみるといいんじゃないかなあ。今からやってみようよ。



○友達2人がマットの横に立つように声をかけ、安心して跳べるようにする。

○後頭部をつき、おへそを見ながら回っている児童を賞賛する。

○うまく進められないグループにはどんな話し合いをすればよいか助言する。

◆積極的に友達に関わり、互いの技能の向上を目指してアドバイスし合っている。

【人間形成・社会形成能力】

○ポイントを絞って、みんなが意識してできるように助言する。

○グループの全員ができたなら、次のポイントに移るように助言する。

○気づいたことは、良かったところでも、アドバイスでも積極的に伝えるように助言する。

○もらったアドバイスをもとに、何度か挑戦してみるように助言する。

○できる児童が手本を見せたり、できない児童にアドバイスをしたりするなど、その児童に合った方法で取り組むように助言する。

○特にできない児童がやってみる場合は、怖い思いをさせないような配慮をするように声をかける。

※以下、省略

資料5

6 本時のねらい

自分のよいところや持ち味を見つけ、自己有用感をもつことができる。

7 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿と評価方法
導入	<p>1 事前アンケートを基に、先生のおさや持ち味について考える。</p> <p>2 前時の活動を想起し、本時の活動内容を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が考えてつけてくれた星に感謝し、これから自分ががんばりたいことについて話す。 ・本時の活動について説明し、児童が意欲をもって取り組めるようにする。 	事前アンケートの結果	
展開	<p>3 友達のよさや持ち味について考え、星をつける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか星がつけられない児童には、具体的な場面を思い出すように助言する。 ・早く終わった児童には、星をつけた理由をくわしく書くように助言する。 	友達評価用ワークシート3枚	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のよいところや持ち味について真剣に考えている。(観察) <p>【人間関係形成・社会形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のよいところを認め、気持ちや考え方を理解しようとしている。(友達評価用ワークシート)
	<p>4 友達がくれた星と、事前に自分がつけていた星を比べ、自分のよさや持ち味について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ星がもらえたのか、自分の言動を思い出してみよう助言する。 	自分用ワークシート	<p>【課題対応能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価と友達からの評価を比べ、自己発見につなげることができる。(自分用ワークシート)
終末	<p>5 学習の感想とこれからがんばりたいことを書く。</p> <p>6 書いた感想を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「うれしかった」「楽しかった」だけではなく、なぜそう感じたのかを具体的に書けるようにする。 ・次時につながる発表については積極的に取り上げておく。 	振り返りカード	<p>【自己理解・自己管理能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のよいところや持ち味を見つけることができる。(振り返りカード) <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のよいところや持ち味を見つけ、自己有用感をもつことができる。(観察・振り返りカード)

キラリ☆みっけ (自分用)



名前 ()

① 自分のよさ・持ち味を10個えらんでぬりましょう。

- おもしろい星.....☆☆☆
- がんばり星.....☆☆☆
- やさしい星.....☆☆☆
- しょうじき星.....☆☆☆
- 明るい星.....☆☆☆
- まじめ星.....☆☆☆
- たよれる星.....☆☆☆
- やる気星.....☆☆☆
- めんどろみ星.....☆☆☆
- リーダー星.....☆☆☆
- 元気星.....☆☆☆
- ていねい星.....☆☆☆
- はたらき星.....☆☆☆

②星をつけた理由を書こう

③かんそう (友達が書いてくれたものと比べてみて)

④これからがんばりたいこと (できるだけぐたいてきに書こう)

キラリ☆みっけ (友達用)

友達6

○名前 ()

●書いた人の名前 ()

友達のよさ・持ち味を10個えらんでぬりましょう。

- おもしろい星.....☆☆☆
- がんばり星.....☆☆☆
- やさしい星.....☆☆☆
- しょうじき星.....☆☆☆
- 明るい星.....☆☆☆
- まじめ星.....☆☆☆
- たよれる星.....☆☆☆
- やる気星.....☆☆☆
- めんどろみ星.....☆☆☆
- リーダー星.....☆☆☆
- 元気星.....☆☆☆
- ていねい星.....☆☆☆
- はたらき星.....☆☆☆

こんなところがすてきたピョン!



あなたのここがすばらしい!



君こそスターだ!



本当は10個いじょうつけたいな。




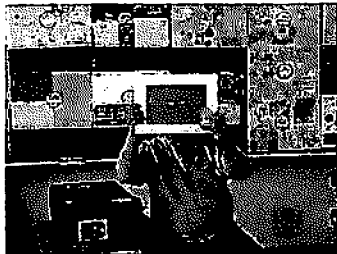




星をつけた理由 (ぐたいてきに書くと、もらった人がうれしいね!)

資料7

○「お家の人の仕事」の活動の様子。3人のお家の方に話をしてもらった。

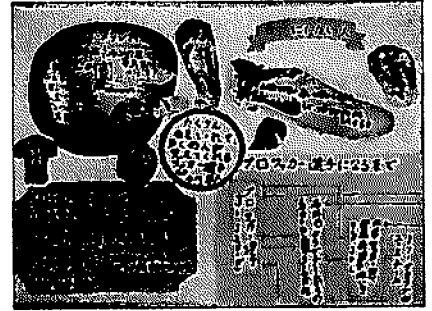
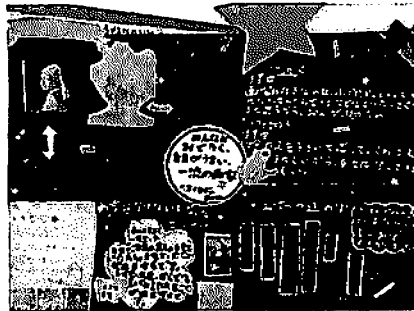
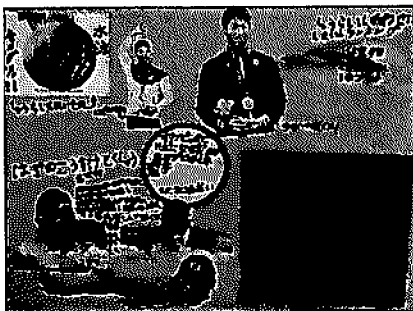
- ①なぜ、今の仕事を選んだのか。
- ②仕事ではどんなことをしているのか。
- ③今の仕事の大変なことは何か。
- ④今の仕事のやりがいは何か。

主にこの4点について話をしてもらった。

 	 	 
<ul style="list-style-type: none"> ・倉庫で物流に関わる仕事をしている。 ・主に夜勤で、みんなと逆の生活をしている。 ・-40℃の冷凍室での作業が大変 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体駐車場を設計する仕事をしている。 ・ミリ単位での細かい設計が要求される。 ・自分が設計した駐車場がしっかり動くとうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットショップを経営している。 ・こまめな清掃やペットの体調管理など、やることが多い。 ・お客さんに感謝されるとやりがいを感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・いつも食べている果物や冷凍食品が、どうやってお店にならぶのかがわかった。 ・冷凍室での作業は夏はいいけど、冬は大変だと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは算数が好きなので、こういう仕事もやってみたいと思った。 ・3段の駐車場も作っているなんてびっくりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝から夜遅くまで、ペットのお世話をしなくちゃならないから大変そう。 ・かわいいペットを連れてきてくれてうれしかった。

※上段はお家の人の話より。下段は児童の感想。

○児童が作成したドリームマップ



資料8

本時の学習

(1) 本時の目標 (◇は総合的な学習の時間・☆はキャリア教育)

◇2次研究の進め方について、友達と積極的に話し合うことができる。(関心・意欲・態度)

☆相手の立場になって話を聞き、友達の2次研究の進め方について必要なアドバイスをすることができる(人間関係形成能力)

(2) 本時の展開 (32/61)

時	学習活動	○指導や支援の手立て 評価 (◇総合 ☆キャリア教育の視点)
1	前時の学習を想起し、本時の課題を確かめる。	○本時の活動の内容と目標を伝える。
2次研究を充実させるために、今後の計画についてグループの友達とアドバイスし合おう。		
2	<p>計画書をもとに、グループのメンバーそれぞれの2次研究について話し合う。</p> <p>【話し合いの流れ：1人8分】</p> <p>①発表者は計画書をもとに、2次研究の進め方について説明する。</p> <p>※この時、1次研究でやった具体物などがあれば示しながら行うようにする。</p> <p>②聞く人は、気が付いたことを付箋にメモをしながら聞く。</p> <p>③発表後、聞いていた人は1人ずつ発表者に対して付箋をもとに質問やアドバイスを行う。</p> <p>【チェック項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマから内容がそれていないか ・立てた計画で、研究テーマが深まるか ・本当に実現可能な計画になっているか ・日程・準備物は大丈夫か など 	<p>○小グループ活動全体の流れや、発表の仕方や、聞くときの注意点等について説明する。</p> <p>○発表者は、中間報告会の時と同様に、今後の道すじを具体的に話すように声をかける。</p> <p>○聞く人は「チェック項目」を参考にして良い点や改善点(アドバイス)についてできるだけわしく伝えるように声をかける。</p> <p>○付箋を活用し、アドバイスの内容が後から思い出すことができるようにする。</p> <p>○グループメンバー全員が今回の研究を通して成長できるよう、見通しをもって具体的に考えるように声をかける。</p> <p>○時間のめやすを伝え、アドバイスがもらえない子どもがいないように配慮する。</p> <p>◇意欲的に話を聞き、必要なアドバイスをすることができる(関心・意欲・態度)</p> <p>☆相手の立場になり、立てた計画が正しいかを判断し、必要なアドバイスをすることができる。(人間関係形成能力)</p>
3	<p>友達からもらった付箋を整理し、次時に行う計画の修正に生かせるようにする。</p> <p>・「よかったところ」「アドバイス」のように、友達からもらった付箋をグループ分けする。</p>	○机間指導を行い、困っている子どもがいたら個別のアドバイスをする。
4	<p>学習の振り返りを行う。</p> <p>・振り返りカードに本時の活動の振り返りを記入し、発表し合う。</p>	<p>○本時の学習を振り返り、自己評価したり、お互いの頑張りを認め合ったりする。</p> <p>○次回からの活動について予告をする。</p>